１歳児　Ⅰ期（４月～５月）		
ねらい		・新しい環境に慣れる。 ・保育者と一緒に好きな遊びを見付ける。 ・安心して食べたり、眠ったりする。
学びの芽生え	思考	・園内や園舎の散策を保育者と一緒に楽しむ中で、春の自然に触れる。 ・身近な環境の中で探索活動を十分に楽しむ。 ・一人遊びを十分に楽しむ。
	言葉	・自分の名前や友達の名前が分かるようになる。 ・片言が盛んになる。 ・要求をしぐさや簡単な言葉で表現しようとする。
	創造	・保育者と一緒に絵本を見たり、絵を見ながら保育者の言葉のまねをしたりする。 ・保育者と一緒に歌を歌ったり、簡単な手遊びをしたりして楽しむ。
人とのかかわり	協同	・保育者に慣れて安心して過ごす。 ・お気に入りの物(持っていると安定する物)がある。 ・自分の物が分かるようになる。
	信頼	・保育者や同じ部屋で生活している友達に親しみの気持ちを感じる。 ・保育者に甘えたり、わがままを言ったりするなど、安心して思いを出す。
	規範	・「バイバイ」「ありがとう」などの挨拶をしぐさや言葉で行う。 ・保育者のまねをして、一緒に片付けをしようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣	・スプーンを使って、保育者に手伝ってもらったり、自分で食べようとしたりする。 ・おむつが汚れたら取り替えてもらい、きれいになった心地よさを感じる。 ・着替えるときに手や足を動かし、簡単な衣服を脱ごうとする。 ・昼寝が１日１回となる。
	運動	・自由に歩くことを楽しむ。 ・ゆるやかな斜面や段差を上る、下りるなどの足腰を使った運動を取り入れた遊びを楽しむ。 ・たたく、つまむ、転がすなどの指先を使った遊びを楽しむ。 ・リズムに合わせて身体を揺すったり、手足を動かしたりする。

＜指導例＞

◇　好きな遊び・好きな場所
保育室の中で安心して過ごす。

触れ合い遊びを楽しもう
「一本橋こちょこちょ」「だいこんいっぽん」など歌に合わせて保育者と一対一で触れ合いながら遊ぶ。

＜援助のポイント＞
・家庭との連絡を密にし、個々の状態を把握した上で新しい環境の中で安心して過ごせるように、丁寧に対応していく。特に、食事や睡眠などが重要であることを踏まえ、生活の安定を図っていく。
・なるべく少人数で過ごし、担当の保育者との関係を深め、安定して遊べるようにする。食事の席、布団の場所などの生活環境はいつも一定にし、安心できるようにする。

＜家庭との連携＞
・家庭での様子（食事、睡眠、排せつ、好きな遊び）を聞き、家庭と同じように接しながら少しずつ安心して過ごせるようにする。
・園での様子を伝え、子供や保護者との信頼関係を深めていく。
・連絡帳を用いて、家での様子を伝えてもらったり、園での様子を伝えたりしていく。（通年）

「好きな遊び・好きな場所」

１歳児　４月

保育室の中で安心して過ごす

環境の構成

◆　その子のペースで好きな玩具や遊びが見付けられるように、担当の保育者がゆったりとかかわり、気持ちや行動を受け止める。

◆　玩具は遊びたくなるような置き方を工夫する。また、置き場所は子供が使いたいときに自分で取り出しやすいように高さや置き方を工夫するとともに、写真や絵による表示などを用いて分かりやすくする。

◆　安心して十分に一人遊びを楽しめるように、保育室のコーナーづくりなどの工夫や玩具の種類、数に配慮し、一人一人の遊びの場を保障する。

≪玩具≫・重ねコップ　・型落とし(パズルボックス)　・キャップ落とし　・チェーリング落とし
・目で動きを楽しめる玩具　・人形　・ぬいぐるみ　・絵カード　・絵本　など

子供の姿

Ａ児は初めて保護者から離れたため、登園後しばらく泣いている。担当の保育者が抱っこしながら「ほら、Ａちゃん、ワンワンだよ」と犬のぬいぐるみを見せると、泣きながらも玩具に目を向け、触ってみる。抱かれながら、保育室の中の様々な玩具を見たり触れたりして、徐々に泣きやむ。

担当の保育者のそばで、気に入ったぬいぐるみを抱き、座る。保育者が違う玩具を持ってくると、触ったり振ったりする。自分で近くにある車の玩具を取りに行くが、持つとすぐに保育者の元に戻り、「いいのを持ってきたね。かっこいいね」と言われ、にっこりする。持ってきた車を床に置いて、走らせる。「Ａちゃん、ブッブー」と保育者も一緒に遊ぶと笑顔が増え、動く範囲が広がっていく。

徐々に、朝は担当の保育者と一緒に棚から玩具を出してきたり、好きな場所に持ち込んだりして遊ぶようになる。

保育者や部屋に慣れてくると探索活動が盛んになり、いろいろな玩具をいじってみたり、棚からもってきてみたりするようになる。

経験している内容

★学びの芽生え　●人とのかかわり　▲生活習慣・運動

★身近な環境の中で、関心をもった物を見たり、触れたりする。

●担当の保育者にかかわってもらうことを喜び、安心して過ごす。

★▲手で玩具をつかんで動かしたり、目で動きを追ったりしながら、じっくりと玩具と向き合い、一人遊びを楽しむ。

★●担当の保育者と一緒に遊ぶ中で、気持ちや要求をしぐさや表情、言葉などで伝えようとする。

●好きな玩具を持つことで気持ちが安定したり、玩具を介して保育者とのかかわりを楽しんだりする。

援助のポイント

◆　**安心して過ごせるようにする**

様々な玩具を遊びやすく準備することで、子供が好きな物や場所を見付けて安心して過ごせるようにする。また、保護者から家庭で好きな玩具や遊び、安心する声の掛け方や接し方などを聞いておき、その子に合った方法やペースで安定できるようにする。また、必要に応じて家庭からその子が気に入っている毛布、タオル、玩具などを持参してもらう。

◆　**担当の保育者に愛着を感じられるようにする**

子供が関心をもった物や行動を十分に受け止め、保育者も一緒に遊びながら、スキンシップや語り掛けを多くし、担当の保育者に愛着を感じられるようにする。

１歳児　Ⅱ期（６月～８月）		
ねらい		・部屋や保育者に慣れ、一人遊びを十分に楽しむ。 ・身近な物への興味や関心をもち、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に夏の遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・室内や戸外で探索活動を十分に楽しむ。 ・探索活動を通して触れたり試したり驚いたりするなど、いろいろな体験をする。 ・砂遊びや水遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 ・簡単な型はめやパズルをする。 ・喃語や片言で保育者とのやり取りを楽しむ。 ・絵本を保育者と一緒に見ながら、簡単な言葉を繰り返して楽しむ。 ・簡単な二語文を話すことを喜ぶ。 ・保育者の語り掛けや指示が分かり、行動しようとする。 ・クレヨンでぐるぐる描きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて手遊びや体操をする。
人とのかかわり	協同 信頼 規範	・保育者やいつも一緒に生活している友達と安心して過ごす。 ・お気に入りの物やお気に入りの場所がある。 ・“自分で”という気持ちが芽生え、やってみようとする。 ・“自分の(物)”という気持ちをもち、伝えようとする。 ・してほしいことを動作で伝えようとする。 ・保育者に「待っててね」と言われると、少しの間、待てるようになる。 ・「おはよう」「いただきます」などの簡単な挨拶をする。 ・保育者の言葉掛けや表情で、危ないことなどに気付く。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・園生活のリズムに慣れ、落ち着いて過ごす。 ・スプーンを使って自分で食べようとする。 ・おむつが汚れていないときは便器に座ってみる。 ・ズボン、パンツを脱ごうとしたり、帽子をかぶろうとしたりする。 ・靴を脱ごうとする。 ・保育者を追いかけたり、一緒に逃げたりして走ることを楽しむ。 ・斜面、階段の上り下り、トンネルくぐりなど足腰を使った遊びを楽しむ。 ・ちぎる、破く、なぐり描きなどの手や指先を使った遊びを楽しむ。

＜指導例＞

◇　砂場で遊ぼう
いろいろな感触を楽しんで遊ぶ。

園庭や散歩先で小さなものを見付けよう
園庭や園周辺の小道などで、虫や草花、猫などの「小さな生き物見付け」を楽しむ。同じ場所に繰り返し行くことで、散歩の楽しさが感じられるようにする。

＜援助のポイント＞
・気温や湿度が上がる時期なので、個々の健康状態を十分に把握し、水分補給や衣服の調節をして気持ちよく過ごせるようにする。
・自分でやろうとする気持ちを十分に受け止め、見守ったり、励ましたりしていく。
・子供の発見や驚きを保育者も一緒に受け止め、共感していく。

＜家庭との連携＞
・天候や気温の変化により、体調の変化を起こしやすいので、家庭や園での様子を丁寧に伝え合う。また、感染症や食中毒などの予防について配布物等で伝え、健康について十分配慮し合う。
・汗をかいたり、水遊びをしたりする機会が増えて、着替えをすることが多くなるので、着替えを多く用意してもらうようにする。

「砂場で遊ぼう」

１歳児　７月

いろいろな感触を楽しんで遊ぶ

環境の構成

◆　砂場には、さらさらとした状態の砂と水で湿らせてある状態の砂を用意し、両方の感触を楽しめるようにしておく。
◆　１歳児が扱いやすい小さめのサイズのシャベルやカップ、型抜きなどの砂遊びの玩具をそろえておく。
◆　玩具の量は多めにし、使いたいときに使えるようにそろえておく。
◆　砂遊びをした後、シャワーをして着替えができるように準備しておく。

子供の姿

子供たちは園庭に出ることを楽しみにしている。Ｂ児はしゃがみ込んで、ダンゴムシを見付けるとそばにいる保育者に指で示しながら知らせたり、「あった」と指でつまんでみようとしたりする。

砂場には、抵抗なく入っていける子供もいるが、なかなか入ろうとしない子供もいる。

保育者がカップに入れた砂で型抜きをする。Ｃ児は近くに来て、うれしそうに手のひらで触ると崩れてしまう。保育者が「わぁ、崩れちゃった」と言うと笑う。Ｃ児は「もう一回」と保育者に型抜きをするように要求する。何度も型抜きを作ってもらい、触ると崩れることや、そのときの保育者の反応を見ながらにこにこと笑い、繰り返し楽しむ。

経験している内容

★学びの芽生え　●人とのかかわり　▲生活習慣・運動

★ざらざらとした感触やさらさらとした感触、冷たい感触などを味わう。

●★保育者と一緒に繰り返しのやり取りを楽しむ。

●他の子供と同じ場で同じ遊びを楽しむ。

▲★砂を指先でつまんだり、手で触ったり握ったりする。

★形のあるものを触って崩したり、再び形になったりすることを楽しむ中で、驚いたり、繰り返したりすることの面白さを感じる。

援助のポイント

◆　**保育者がモデルになって、砂遊びを楽しむ**

シャベルなどで砂をすくって見せる、型抜きをするなど、保育者が楽しんで遊ぶ姿を見せることを通して、子供の興味を引き出していく。砂場に入ることに抵抗のある子供には、その子に合わせたペースで少しずつ砂に慣れていけるよう、園庭のテーブルに砂で作ったごちそうを載せてままごと遊びに誘うなど、子供に合った遊び方を工夫する。

◆　**体の諸感覚を使って遊べるようにする**

触ったり握ったりすることで形が変化するようないろいろな感触のもので遊び、手や指の力の加減を体験できるようにする。また、砂場でしゃがむ経験が脚力につながることなど、遊びを通した体づくりを保育者が意識し、好機を逃さずに経験が積み重ねられるようにする。

◆　**興味や関心に応じて様々な探索活動ができるようにする**

興味や関心が広がり、戸外における探索活動を楽しむようになってきている。子供たちは保育者が意図した活動以外にも興味や関心に応じて行動するため、戸外で遊ぶときは職員間の連携を密にし、一人一人の動きや思いに応じた援助とともに安全面にも十分に配慮する。

１歳児　Ⅲ期（９月～１０月）		
ねらい		・身近な自然に触れ、興味をもつ。 ・保育者と楽しくかかわる中で、言葉を覚える。 ・全身を使った遊びや一人遊びを楽しむ。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・身近な植物や小動物を見たり、触れたりして興味をもつ。 ・園庭や散歩先で探索活動を楽しむ中で、触れる、やってみる、驚くなど、いろいろな体験をする。 ・小麦粉粘土や砂を使った遊びなどを楽しみ、いろいろな感触を楽しむ。 ・自分の要求や思いを簡単な言葉で伝えようとする。 ・保育者と一緒に絵本や紙芝居を見る。 ・クレヨンでなぐり描きやぐるぐる描きなどをすることを楽しむ。 ・手遊びや歌、体操などを保育者と一緒に楽しむ。
人とのかかわり	協同 信頼 規範	・保育者と簡単な言葉や動作のやりとりをする。 ・思いや要求を指差しや身振りで伝えようとする。 ・園内のお兄さんやお姉さんに親しみを感じ、かかわってもらうことを喜ぶ。 ・保育者の声掛けで危ないことや、やってはいけないことに気付き、やめようとする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・器に手を添え、自分で食べようとする。 ・様々な食品を食べてみようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせ、便器に座ってみる。 ・援助されながら、パンツやズボンなどを自分で着脱しようとする。 ・援助されながら、手洗いをする。 ・靴を自分で脱いだり、履こうとしたりする。 ・保育者と一緒に歩く、走る、よじ登る、くぐる、跳ぶ、ぶら下がるなど全身を使った遊びをする。 ・つまむ、めくる、ちぎる、引っ張る、押すなど指先を使った遊びをする。

＜指導例＞

◇　たんけんごっこ
全身を使って体を動かすことを楽しむ。

一緒に絵本を楽しもう
食べ物や乗り物、動物などの絵本を選び、絵本を媒介にして語り掛け、一緒に楽しむ。

＜援助のポイント＞
・全身運動が活発になるので活動の状態に配慮し、じっくりと遊べるよう安全な環境を整えていく。
・子供が扱いやすい様々な素材に触れる機会をつくり、素材を使う楽しさを十分に感じられるようにする。
・子供の思いや要求など、伝えようとしている気持ちをくみ取り、言葉に置き換えていく。
・自分でやりたいという気持ちを受け止めながら、一人一人に合った援助をしていく。

＜家庭との連携＞
・行事や保育参観を通して子供の姿を見てもらい、共に成長を喜び合う。また、簡単な身の回りのことを自分でしたがるようになるので、発達の特徴や保育者の接し方を伝え、家庭でも時間や気持ちに余裕をもって接してもらうようにする。
・季節の変わり目で体調を崩しやすくなるので、園や家庭での子供の様子を伝え合い、家庭での食事や睡眠に十分気を付けてもらうようにする。

「たんけんごっこ」

１歳児１０月

全身を使って体を動かすことを楽しむ

環境の構成

◆　遊びながら経験させたい動きを引き出せる遊具を、数か所に設定する。
例えば、木製滑り台（高さ６０ｃｍ程度）、マットを丸めたもの、乗用玩具、ろくぼく、鉄棒など。それぞれの遊具に保育者が付くとともに、必要に応じてマットを敷くなど安全面に配慮する。

◆　ごっこ遊びや追いかけっこなどを取り入れる。
「さあ、しゅっぱつ」と言って歩きながら「お山を発見、登ってみようか」と誘い掛けるなど、子供たちが運動遊びに自然に興味をもつように、ごっこ遊びを取り入れる。

子供の姿

Ｄ児はマットの「お山」に触れるが、なかなか動き出さずにいた。保育者が「Ｄちゃん、お山だよ。ガオーって登れるかな」とＤ児の好きな怪獣をイメージして声を掛けると、Ｄ児は「ガオー」と言って山に向かう。保育者の援助により、最後まで山を登る。「できたね」と言うと、「できた」とにっこりと笑い「もう１回」と言って繰り返す。

滑り台では、うつ伏せで滑る、座った状態で滑るなど子供によって、様々に楽しんでいる。友達の楽しそうな様子に子供たちが集まってきて、先に滑ろうとして混雑する。保育者は「ピッピー、おすべり電車は順番です」と言いながら並ばせる。Ｅ児は、「Ｅちゃん電車、出発」という合図を受けて、うつ伏せで滑る。その後、鉄棒にぶら下がったり、ろくぼくをよじ登ったりして遊ぶ。

Ｆ児はしばらく様々な遊具を見て回る。保育者が「Ｆちゃん、まって」と追いかけると喜んで逃げる。
少し広い場所に行き、保育者が「ここは踊りの国です」と子供たちが気に入っている音楽をかけて踊ると、Ｆ児も音楽に合わせて体を揺らす。近くにいた子供も入ってきて、一緒に体を動かしたり、保育者の動きをまねたりする。

経験している内容

★学びの芽生え　●人とのかかわり　▲生活習慣・運動

★●興味のある場所を見付けて、自分からやってみようとする。

★▲音楽に合わせて体を動かすことを楽しむ。

●保育者の声掛けで、順番に並ぶ。

●「できたね」など、保育者に褒められて喜ぶ。

▲全身を使って遊ぶことを楽しむ。

援助のポイント

◆　**数か所に分かれて遊べるようにする**
それぞれの関心や発達の過程に応じて楽しめるよう、遊具を数か所に分けて設定する。遊び始めの導入は複数の子供を対象にするが、その後は一人一人の関心に応じた遊びになる。待ち時間が少なくたっぷりと楽しめるよう、状況に応じて他の遊具に誘うなど、全体のバランスに配慮する。

◆　**危険のないように注意する**
各遊具に保育者が付いて、子供たちの動きを注意して把握する。自分でやりたがる時期でもあり、保育者が手伝うのを嫌がったり、予想しない行動を取ることもあるので、マットを敷くなど環境を整えて危険のないようにしたり、保育者の立つ位置を考えて、目を離さないようにしたりする。

◆　**一人一人の感じる楽しさを共に味わう**
子供の好きなものやイメージを生かしながら援助し、体を動かす楽しさを味わえるようにする。また、できたことを一緒に喜び、満足感や意欲を引き出していく。

１歳児　Ⅳ期（１１月～１２月）		
ねらい		・要求を言葉で伝えたり、言葉を使うことを楽しんだりする。 ・保育者と一緒に模倣遊びを楽しむ。 ・全身を使って遊んだり、簡単なリズム遊びをしたりする。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・身近な自然や小動物に触れ、親しむ。 ・積木やパズルなど身近な玩具に興味をもって遊ぶ。 ・保育者や友達と簡単な言葉のやり取りを楽しむ。 ・保育者と簡単な挨拶をしてみる。 ・好きな絵本や紙芝居を読んでもらうことを喜ぶ。 ・いろいろな素材に触れて遊ぶ。 ・歌や手遊び、簡単なリズム遊びを楽しむ。
人とのかかわり	協同 信頼 規範	・保育者と簡単なやり取りをしようとする。 ・保育者と一緒に見立て遊びや再現遊びをする。 ・身近な大人や子供に関心をもつ。 ・大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。 ・「待っててね」「あとでね」などの言葉掛けが分かり、行動する。 ・タオルなど自分と友達の持ち物を区別する。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・スプーンを正しい持ち方で持ってみたり、自分で食べようとしたりする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・パンツやズボン、靴などを自分で着脱しようとする。 ・自分で手洗いをしようとする。 ・保育者と一緒に片付けをしようとする。 ・指先を使った遊びを繰り返し行う。 ・ボールを蹴ったり投げたりして、保育者と一緒に体を動かして遊ぶ。

＜指導例＞

◇　おままごとをしよう
保育者とやり取りすることを楽しむ。

手遊びや歌を歌おう！
保育者が楽しく歌ったり手遊びをしたりして楽しさを知らせながら、子供と一緒に遊ぶ。
・手遊び「あたま、かた、ひざ、ぽん」　など
・身近な動物や食べ物の出てくる歌　など

＜援助のポイント＞
・物の取り合いなどで子供同士のトラブルも多くなるが、一人一人の思いを受け止めたり、同じ物を複数用意したりしながら、友達とのかかわりを育んでいく。
・子供との会話を楽しんだり、遊びの楽しさを周囲の子供とも一緒に感じたりしていく。
・落ち着いて遊べるようになってきているので、じっくりと遊んでいる様子にかかわり満足感や喜びを感じられるようにする。

＜家庭との連携＞
・個人差が大きくなる時期なので、一人一人の発達に合わせた対応をすることが大切であることを知らせていく。
・感染症が流行する時期なので手洗いをしっかりと行い、健康状態を把握できるよう連絡を取り合う。
・友達への関心が芽生え、かかわって遊ぶようになってくる。物の取り合いやけんかなど、時にはぶつかり合うことも成長の表れであることを知らせていく。

「おままごとをしよう」

１歳児１２月

保育者とやりとりすることを楽しむ

環境の構成

◆　仕切りや部屋の角を利用してままごとコーナーを設置する。身に付ける物を用意したり、玩具を整理したりして遊びやすい環境をつくる。また、子供の関心や扱いやすさを考慮して、イメージを広げて遊べるように、手作り玩具を用意する。

（仕切り、テーブル、椅子、ままごと道具、フェルト製食べ物、人形、エプロン、三角巾、布団スカート、布製バック　など）

◆　玩具を子供が出し入れしやすいよう、棚には道具の写真を貼ったり、箱やかごを用意したりする。

子供の姿

Ｇ児は、ままごとコーナーでスカートをはき、エプロンを付けて、料理をする。H児は人形を布団に寝かしつけている。保育者が、「Ｇちゃんのご飯が食べたいなあ」と言うと、Ｇ児は作った料理をお皿に入れ、「どうぞ」と保育者に渡す。保育者が食べるまねをして「ありがとう。ああ、おいしい。Ｇちゃんお母さんのご飯はおいしいね。Hちゃんも食べますか。どうぞ」と、H児に料理を渡す。H児は食べるまねをしておいしい、というしぐさをする。保育者が「Hちゃん、おいしいね」と言うと、H児は「おいしいね」と言う。３人で一緒に「ごちそうさま」と言うと、顔を見合わせて笑う。

そこへＩ児が入ってきて、H児の使っている人形を取ろうとする。H児は「だめ」と言う。保育者は「Ｉちゃん、Hちゃんが使っているんだって。こっちにもかわいい赤ちゃんがいますよ」と別の人形と布団を渡す。Ｉ児はH児の隣で、同じように布団に寝かせ、トントンとたたきながら「ねんね」「ねんね」と言ってにこにこと笑う。

保育者が「さあ、夜だから、赤ちゃんはベッドに寝かせましょうね」と言い、一緒に片付けていく。

経験している内容

★学びの芽生え　●人とのかかわり　▲生活習慣・運動

★料理作りをしたり、人形を寝かせたりするなど、じっくりと遊ぶ。

★●保育者や友達と簡単な言葉や物のやり取りを楽しむ。

★●大人や友達のやっていることをまねて遊ぶ。

●▲遊んだ玩具を保育者と一緒に片付ける。

援助のポイント

◆　**保育者がモデルとなって遊び、言葉や物のやりとりを楽しめるようにする**

子供の好きな生活場面を保育者がモデルとなって再現しながら、それぞれの興味に沿ってじっくりと遊び、満足できるようにする。少人数の中でゆったりと一人一人に応じることで、保育者と気持ちを通わせながら言葉を使う楽しさや、やり取りをする嬉しさを経験できるようにする。

◆　**保育者が言葉を添え、子供同士のやりとりを促していく**

「貸して」「どうぞ」「いいよ」「おいしいね」など保育者が言葉や動作を添えながらやり取りを促し、友達と同じ場所で遊んだり簡単なやり取りをしたりする楽しさを味わえるようにする。

◆　**ままごとコーナーを充実させる**

玩具の取り合いが原因でトラブルが起こりやすいので、玩具は数組用意する。人形は布団に寝かせるなど楽しい雰囲気の中で、子供たちが遊びたくなるような環境をつくる。発達に合わせて玩具の内容を確認したり、手作り玩具などでイメージを広げられるようにしたりする。

１歳児　Ｖ期（１月～３月）		
ねらい		・身の回りの様々なことに興味や関心を示し、探索活動を十分に楽しむ。 ・保育者と一緒に、興味のあることや生活経験を取り入れた簡単なごっこ遊びを楽しむ。 ・保育者の手助けを受けながら、簡単な身の回りのことをしようとする。
学びの芽生え	思考 言葉 創造	・保育者とのかかわりを通して言われたことの意味が分かり、その通りに行動してみる。 ・大人をまねたり、自分の好きな役になったりすることを楽しむ。 ・身近な小動物や植物を見たり触れたりして、周囲の様々なことに関心をもつ。 ・したいこと、してほしいことを、しぐさや簡単な言葉で伝えようとする。 ・身の回りのことに興味や関心が広がり、「これなあに」などと聞いたり、答えてもらったりすることを喜ぶ。 ・絵本や紙芝居を読んでもらい、繰り返しのある言葉に興味をもつ。 ・保育者と一緒に簡単な手遊びをしたり、知っている歌を口ずさんだりする。 ・音楽に合わせて体を動かし、自分なりの動きを楽しむ。 ・歌や音楽に合わせて、音の出る手作り玩具などを鳴らして遊ぶ。
人とのかかわり	協同 信頼 規範	・好きな友達ができ、そばに近寄ったり一緒にいたりする。 ・保育者や友達と簡単なごっこ遊びをする中で、友達の存在を感じる。 ・興味をもったことを、何でも自分でやってみようとする。 ・友達や保育者の名前を呼び、親しみをもってかかわろうとする。 ・保育者に促されて、生活の中の簡単なきまりや危険なことなどに気付く。 ・自分の物と人の物の違いに気付くようになり、自分の物の置き場所が分かる。 ・保育者の援助を受けながら、少しずつ納得して物の貸し借りをする。
生活習慣・運動	基本的な生活習慣 運動	・スプーンを正しい持ち方で持とうとし、最後まで自分で食べようとする。 ・保育者や友達と同じ場で、楽しく食べる。 ・手助けを受けながら簡単な衣服を自分で着脱しようとする。 ・排せつをしぐさや言葉で知らせたり、便器で排せつしたりする。 ・体操、追いかけっこ、蹴る、投げるなど、全身を使った遊びを楽しむ。 ・ボタンはめ、ひも通し、クレヨンを扱うなど指先を使った遊びを楽しむ。 ・散歩や固定遊具での遊びなど、戸外で体を動かして遊ぶ。

＜指導例＞

◇　今日のごはんは何かな
食べることを楽しみにしながら食事をする。

自分でできるもん
パンツやズボンを自分ではく、手洗いをするなど、保育者に声を掛けられて自分でやろうとする。

＜援助のポイント＞
・基本的な生活習慣の形成には個人差を考慮し、落ち着いた雰囲気の中で繰り返し経験させていく。また、自分でしようとする気持ちを大切にしながらさりげなく援助し、自分でできた満足感を味わえるようにする。
・子供の伝えたい気持ちを感じ取って言葉にしたり、状況を見て言葉を掛けたりしながらやり取りをし、会話の楽しさを伝えていく。

＜家庭との連携＞
・連絡ノートや登降園時に園での子供の活動の様子を知らせ、子供が様々な姿を見せながら成長していくことの喜びを伝え、共感していく。
・身の回りのことを自分でしようとする姿が見られたら、その姿を伝え、家庭でも子供の成長として受け止め、見守ってもらえるようにする。また、服や靴などは自分で着脱しやすいような物を準備してもらえるように、具体的な見本などを示して伝えていく。
・生活や遊びの中での言葉のやり取りをクラスだよりなどで紹介し、家庭でも簡単な会話を楽しんでもらうようにする。

「今日のごはんは何かな」

1歳児　3月

食べることを楽しみにしながら食事をする

環境の構成

◆　食事の席や手洗いから食事までの子供の行動の流れを一定にし、安心して行動できるようにする。
◆　一人一人に合わせた姿勢で食事ができるように、椅子の下に台や箱を置いて高さを調節したり、背もたれを固めのクッションなどで調節したりする。
◆　スプーンや茶碗など、正しい食器の持ち方を無理なく身に付けていく機会を、日常的につくる。

子供の姿

保育者に援助されながら、石けんで手洗いをし、各自のタオルで手を拭いた後、自分の席に着いてエプロンを付けてもらう。「今日のごはんは何だろうね」など、楽しみに待てるように声を掛ける。

保育者と一緒に食事の挨拶をし、スプーンやフォークを持ち自分で食べ始める。好きな物だけ食べてしまう子供、すぐに飲み込んでしまう子供、苦手な食べ物を飲み込めない子供、食の細い子供など、食事の仕方は様々である。「もぐもぐゴックン」「おいしいねえ」などの言葉で、保育者や子供同士でうなずき合ったりして食べる。食事の後半は、子供によって保育者に食べさせてもらい、「いっぱい食べたね」と褒められてうれしそうにする。「ごちそうさま」の挨拶の後で、エプロンを取ってもらい、保育者と一緒に各自のおしぼりで口の周りや手を拭く。

経験している内容

★学びの芽生え　●人とのかかわり　▲生活習慣・運動

●▲保育者に言葉を掛けてもらいながら楽しく食事をする。

▲手を洗ったり、タオルで口の周りや手を拭いたりする。

▲スプーンやフォークの持ち方を覚え、食器に手を添えて自分で食べようとする。

▲「もぐもぐゴックン」の声掛けで、よくかんで食べる。

援助のポイント

◆　**食事に向かう気持ちを大事にする**

「お腹がすいたね」「今日のご飯は何かな」など食事を楽しみにできるような言葉を掛ける。食事に関心を示さない子供には、タイミングを見計らって誘いかけるようにし、気持ちの切り替えをうまくできるようにしていく。また、調理室で食事を作っている様子を窓越しに見ることで、食事に関心をもてるようにする。

◆　**一人一人の状況に応じて援助する**

保育者がテーブルに付き、それぞれの子供の状況に合わせて、食器の持ち方や、そしゃくの仕方を介助する。「もぐもぐゴックン」「おいしいね」などと声を掛けながら、楽しい雰囲気で食事が進められるようにするとともに、食事のマナーを知らせていく。家庭での状況や体調などに合わせて食事の量を調整し、「食べられた」という満足感がもてるようにする。また、様々な食品を食べてみようと思う気持ちを大切にする。

スプーンの正しい持ち方への移行の方法を家庭にも伝え、共通にして行っていく。

◆　**一人一人の生活リズムに配慮する**

一人一人の生活リズムや朝食などの様子を把握し、午前中の遊びを充実させてお腹が空いた状態で食事ができるようにする。

また、食物アレルギーのある子供は、アレルギー食品に触れないように配慮する。